

Network Security Forum 2017

2017年1月23日（月）、東京・ベルサール八重洲にてJNSA主催シンポジウム「Network Security Forum 2017」が開催されました。サイバーセキュリティ戦略本部、総務省、経済産業省、独立行政法人 情報処理推進機構のご後援のもと、当日はのべ216名の参加者をお迎えし、盛況のうちに開催されました。

本セミナーでは、情報セキュリティ分野における時事に即したトピックについての講演、JNSAの部会、WG活動におけるテーマを中心にセッションを展開しました。

基調講演では奈良先端科学技術大学院大学教授の門林 雄基氏をお迎えし、「規制、イノベーション、協調：サイバーセキュリティ成熟度向上へのアジェンダ」についてご講演いただき、さらに特別講演として、株式会社ディー・エヌ・エーのシステム本部セキュリティ部部長 茂岩 祐樹氏より「経営に求められるセキュリティの在り方」をお話いただきました。

また、脅威予測を発表されている複数のベンダーによるパネルディスカッションや教育部会によるカードゲームを使ったワークショップなども行われました。

各講演の資料（一部を除く）はJNSAのWebサイトで公開していますのでぜひご覧下さい。

<http://www.jnsa.org/seminar/nsf/2017/pro.html>



門林教授の基調講演



パネルディスカッションの様子



ワークショップ「セキュリティをゲームで学ぼう」の様子

Network Security Forum 2017 (NSF 2017) <プログラム>

2017年1月23日(月) 会場:ベルサール八重洲

Room2 + 3(定員 150名)	
【S1】 基調講演 10:00-11:00 (60分) 規制、イノベーション、協調:サイバーセキュリティ成熟度向上へのアジェンダ 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授 門林 雄基 氏	
休 憩	
【S2】 特別講演 11:10-12:00 (50分) 経営に求められるセキュリティの在り方 株式会社ディー・エヌ・エー システム本部セキュリティ部部长 茂岩 祐樹 氏	
休 憩	
トラック 1 (Room4+5 / 定員 150名)	トラック 2 (Room2 + 3/ 定員 150名)
【A1】 パネルディスカッション 13:00-14:50 (110分) ベンダー各社が予測する、2017年の脅威!! モデレーター:丸山 司郎 氏 (株式会社ベネッセインフォシエル/社会活動部会長) <パネリスト> ・株式会社カスペルスキー 情報セキュリティラボマルウェア リサーチャー 石丸 傑 氏 ・トレンドマイクロ株式会社 上級セキュリティエバンジェリスト 染谷 征良 氏 ・パロアルトネットワークス株式会社 Unit42/サイバースレットインテリジェンスアナリスト 林 薫 氏 ・マカフィー株式会社 プロフェッショナルサービス本部 小川 泰明 氏	【B1】 13:00-14:00 (60分) 電子署名 WG セッション PDF長期署名プロファイルの国際標準化を振り返って 佐藤 雅史 氏 (セコム株式会社 / 電子署名 WG サブリーダー) リモート署名の検討状況 小川 博久 氏(みずほ情報総研株式会社 / 電子署名 WG サブリーダー) 休 憩 【B2】 14:10-14:50 (40分) 「セキュリティ対応組織の教科書 v1.0」の公開 阿部 慎司 氏 (NTT セキュリティ・ジャパン株式会社 / ISOG-J メンバー)
休 憩	
【A2】 15:00-15:50 (50分) IoT セキュリティの課題と解決策 ～ JNSA IoT Security WG の試み～ 松岡 正人 氏 (株式会社カスペルスキー / IoT セキュリティ WG リーダー)	【B3】 15:00-15:50 (50分) 「良い職場環境」が悪い方向に転がらないようにするために 甘利 康文 氏 (株式会社セコム / 組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応 WG リーダー)
【A3】 15:50-16:20 (30分) JNSA 情報セキュリティ市場調査 2015年推定実績速報 木城 武康 氏 (株式会社日立システムズ / セキュリティ市場調査 WG リーダー)	
休 憩	
【A4】 16:30-18:00 (90分) 【ワークショップ】 セキュリティをゲームで学ぼう! 長谷川 長一 氏 (株式会社ラック / 講師スキル WG リーダー) 青木 翔氏 (JPCERT コーディネーションセンター / 講師スキル WG メンバー) 林 憲明 氏(トレンドマイクロ株式会社 / 講師スキル WG メンバー)	

イベント開催の報告

JNSA賀詞交歓会・JNSA賞表彰式のご報告

賀詞交歓会

恒例のJNSA賀詞交歓会は、2017年1月23日（月）、東京・ベルサール八重洲にて開催されました。今回は約150名の方にご参加いただき、大変盛況な会となりました。

冒頭、JNSA会長 田中英彦氏より開会の挨拶を申し上げ、来賓としてお招きした経済産業省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官 伊東寛氏よりご挨拶を頂き、独立行政法人情報処理推進機構 理事長 富田達夫氏による乾杯のご発声のもと、開宴しました。

会の中盤で、内閣官房サイバーセキュリティセンター 内閣審議官 三角育生氏、総務省情報流通行政局官房審議官 吉岡てつを氏よりご挨拶を頂きました。



内閣官房 内閣サイバー
セキュリティセンター
内閣審議官 三角 育生 氏



総務省情報流通行政局
官房審議官 吉岡 てつを 氏



経済産業省大臣官房
サイバーセキュリティ・
情報化審議官 伊東 寛 氏



独立行政法人
情報処理推進機構
理事長 富田 達夫 氏

JNSA 賞 表彰式

しばらく歓談が続いた後、今回で11回目を迎えた毎年恒例のJNSA賞の表彰式が執り行われました。各賞の受賞者をご紹介後、田中会長から表彰状と記念の盾、副賞が授与されました。

受賞者と受賞理由は以下の通りです。受賞者の皆様、おめでとうございます。

個人の部（2件）

◇ 国内外の標準化活動を通して広く社会の情報セキュリティ向上に貢献

- 佐藤 雅史 氏（電子署名WGサブリーダー／PDF長期署名プロファイルに関する国際標準化事業プロジェクトリーダー／セコム株式会社 主任研究員）

電子署名WGサブリーダーかつ電子署名WG/PAdESプロファイルタスクフォースリーダーとして、主に電子署名関連規格の国際標準化に携わり、ISO/TC154におけるPAdESプロファイル（ISO14355-3）のエディタを担当し、主導的立場で推進、IS化（国際標準化）への目途を付けた。また、欧州電気通信標準化機構（ETSI）の会議に参加し、JNSAの存在価値を欧州の電子署名専門家知らしめるなど、これら国内外の標準化活動を通して広く社会の情報セキュリティ向上に貢献するとともに、JNSAの知名度向上や活動の活性化に多大の貢献を果たした。

◇ JNSA 社会活動部会の部会長としてイベントを企画、認知度向上に大きく貢献

○丸山 司郎 氏 (社会活動部会長／株式会社ベネッセインフォシエル 代表取締役社長)

JNSA社会活動部会の部会長として、メールマガジン・セキュリティしんだん・ライトニングトーク大会・JNSA十五周年地方セミナー・シンポジウムなどを率先して企画してきた。また、通年でのパブコメ対応を行うなどにより、部会ならびにJNSAを活性化させ、JNSA認知度向上に貢献した。

ワーキンググループ(WG)の部 (1件)

◇ JNSA の社会貢献と知名度向上に大きく貢献

○組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応 WG

(WGリーダー：セコム株式会社 甘利 康文 氏)

長年の活動の集約として一昨年「内部不正対策 14 の論点」を出版、ならびに、「日本の人事と内部不正」のインタビューを連載するなど活発な活動を通して、セキュリティ対策の視点として内部不正の重要性を社会に知らしめた事、ならびに、その結果としてJNSAの社会貢献と知名度向上に多大な貢献をした。

特別賞 (2件)

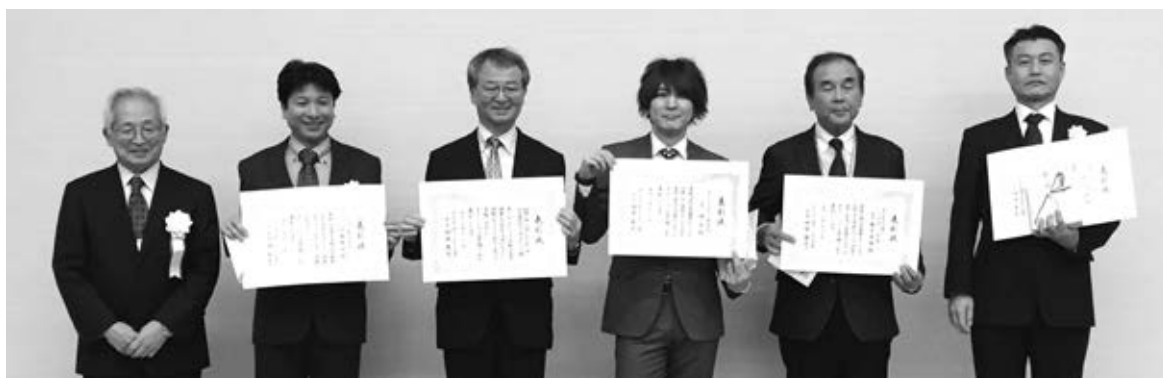
◇ インターネット安全教室を中心とする情報セキュリティ普及啓発活動を活発に実施することにより、広く一般社会のセキュリティ知識の向上に貢献

○特定非営利活動法人シニアネット佐賀(理事長：香月 幸雄 氏)

◇「一人CSIRT」として、情報セキュリティ業界に大きく貢献

○辻 伸弘 氏(ソフトバンク・テクノロジー株式会社 シニアセキュリティエバンジェリスト)

「一人CSIRT」として、個人で公開情報を元に情報セキュリティインシデントの調査を行い、ブログで広く情報公開を行う。ハッシュ値やアクセス先IPなどの積極的な情報の公開は、セキュリティに関する情報共有のあり方に一石を投じつつ、セキュリティの向上に大きく貢献している。<http://csirt.ninja/>



JNSA 賞受賞者の皆さん

JNSA IoTセキュリティセミナー報告

IoT セキュリティ WG
日本プロセス株式会社 長坂 啓司

2016年10月26日にJNSA IoTセキュリティWG主催のセミナー「IoTセキュリティセミナー ～IoTの未来とセキュリティの課題～」が、日本IBM本社セミナールームにて行なわれました。

IoTセキュリティWGでは、2016年6月に「コンシューマ向けIoT セキュリティガイド」を発行しました。また、2016年は様々な組織・団体が多様なIoTセキュリティのガイドラインを発行しています。このセミナーでは、パリエティに富んだ講演者とIoTおよびIoTセキュリティに関連する6団体によるパネルディスカッションを通じて、IoTの本格普及に向けて重要となるIoTセキュリティの現状と未来を示すことを目的としました。

当日はIoTセキュリティに対する世間の注目を表す通り、180名以上の参加者が集まり、熱気にあふれたセミナーとなりました。

基調講演

ネットワーク観測からわかるIoTのサイバーセキュリティ実情 吉岡克成氏（横浜国立大学准教授）

日本のIoTマルウェア研究の第一人者である吉岡准教授の観測成果では、ネットワーク上のIoT機器は多くの攻撃にさらされており、既にIoT機器がマルウェア感染してそこから別の機器への攻撃が起きているとのことでした。具体的には吉岡准教授が設置した機器には2016年1～6月の期間で約60万台（IPアドレスで区別）、500種類を超える攻撃アクセスがあり、その攻撃は、監視カメラやWi-Fiルータ、デジタルレコーダなどを中心に、駐車管理システムや太陽光発電システムなどのシステム、さらにはMRIなどの医療機器からも行なわれていることが判明しています。攻撃のほとんどはtelnetポートに対するもので、デフォルトまたは弱いパスワード設定のために侵入を許しているとのことでした。

そして、それらの感染した機器を利用したDDoS攻撃も行われており、リオ五輪の時期には500Gbpsクラスの攻撃が頻繁に行われたということでした。

吉岡准教授の観測では、telnet以外にもシステムメンテナンス用のWebインターフェースがインターネットからアクセスできてしまい、非常に脆弱な状態になっている例もあるそうです。特に、Wi-FiルータなどではオンラインマニュアルにID、パスワードが記載されている場合もあり、とても危険だとの話がありました。

情報システムの世界では常識である、telnetポートを閉じる、インターネットに公開するページを限定するといった基本的なルールがIoT機器では守られておらず、既にマルウェア感染が広がっているという実態を聞き、特にその数字に驚きました。吉岡准教授からはこの状況をメーカーの自助努力だけで改善することは難しいだろうとの見込が示され、諸団体が連携して早急にセキュリティ対策の取組みを進めていく必要があると感じました。

ゲスト講演

新たな生命体「ロボット」が直面した既存社会のセキュリティ 太田智美氏（ロボットパートナー）

講演者の太田氏はPepperとともに生活しており、今回の講演ではそのロボットパートナーとしての生活で直面した課題がいくつも紹介されました。Pepperと一緒に新幹線に乗る、Pepperと一緒に車椅子用エレベータに乗るといったことで、どのような問題が起き、どのように解決されたのか（されなかったのか）を詳しく、そして楽しく説明して頂きました。

モノでもヒトでもペットでもない生命体としてのロボットが社会に溶け込んでいくためには、既存社会に存在するルールを変えていく必要があります。IoTでも、これまでパソコン、スマホの中にあったインターネット（サイバー

空間)が現実世界に入ってくることで、これまでのルール、常識を変えなければならないところが出てくるはずで
す。今回紹介されたエピソードは、IoTでも形を変えて起きうる話でとても興味深いものでした。

JNSA講演

JNSAの考えるIoTセキュリティの課題と対策 武田一城氏 (JNSA IoTセキュリティWG)

この講演では、IoTセキュリティWGが約2年間議論してつくりあげた「コンシューマ向けIoTセキュリティガイド」
の概説を武田氏が発表しました。

まずIoTの普及により生まれる「膨大なIoTデバイスの管理がしきれなくなる(野良IoT問題)」が、脆弱性を狙う
標的型攻撃に対して大きな問題であることが示されました。そして、サイバー攻撃を生活のための手段としている
攻撃者は、「経済性」と「効率」を重視してより脆弱な箇所を狙っており、そのターゲットとして無防備なコンシュー
マ向けの機器が狙われる可能性が高いこと、そこでIoTセキュリティWGではコンシューマ機器開発者向けのセ
キュリティガイドを作成したことが説明されました。

本発表は、「コンシューマ向けIoTセキュリティガイド」の2016年に発行された他のIoTセキュリティガイドライン
に対する立ち位置がよく分かる発表であったと考えます。アンケートでもIoTのセキュリティ課題がよくわかる発表
であったとの声がありました。



イベント開催の報告

パネルディスカッション

IoT関連6団体によるディスカッション「IoTに関する指針やガイドをどう読むか?」

パネリスト

IPA (独立行政法人情報処理推進機構) 辻宏郷氏

JPCERT/CC (一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター) 洞田慎一氏

JASA (一般社団法人組込みシステム技術協会) 竹田彰彦氏

CSAジャパン (一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンス) 二木真明氏

CCDS (一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会) 伊藤公祐氏

JNSA IoTセキュリティWG 杉浦昌氏

モデレータ JNSA IoTセキュリティWG 武田一城氏

2016年にIoTセキュリティガイドラインを発行した団体 (IPA、CSAジャパン、CCDS、JNSA IoTセキュリティWG) とIoT機器を開発する組込み分野の業界団体 (JASA)、セキュリティインシデント対応の中央組織 (JPCERT/CC) が一堂に会した、日本ではほぼはじめてのパネルディスカッションとなりました。パネルディスカッションでは、それぞれの団体の立場でIoTの未来とセキュリティについて熱い意見が飛び交いました。

パネルディスカッションの詳細を紹介することは難しいですが、「リソースの限られたIoT機器でどのようにセキュリティを担保するのか」、「システムを知り尽くした内部の人間が攻撃者にならないためにどうするか」、「情報システムの常識を知らない新しいIoT機器製造者、IoTシステム運用者にどうセキュリティ意識を伝えていくか」、「まだ議論が尽くされていないIoTのプライバシーの問題をどうするか」、「IoT機器がセキュリティ事故を引き起こしたときの責任の所在はユーザーになるのか、メーカーにあるのか」など、様々なIoTセキュリティの課題があり、その対策のためにやるべきことはまだまだたくさんあるということが明らかになりました。

しかし、パネリストからは、「IoTは自由で夢のある世界であり、セキュリティのためにIoTの未来にふたをすることはないようにしたい」、「IoTを人類の明るい未来の象徴とするために、ディベロッパーの発想にたがをはめないセキュリティのフレームワーク化が必要」、「IoTを知っていてもセキュリティのことをあまり知らない人は多い。彼らに会って話をしていくことでセキュリティによって阻害されないIoTの未来をつくりたい」といった、各団体の今後の活動に向けた強い意気込みが示されました。

今回のセミナーに参加し、パネルディスカッションを聞き、私も情報システム業界の一員として、IoTの明るい未来のために自社が得意とするソフトウェア開発分野で頑張っていきたいと思いました。そして、IoTセキュリティWGの一員として、今後とも微力を尽くしていきたいと思います。